

大崎市

古代新田郡 官人たちのムラ

団子山西遺跡

田尻西部地区ほ場整備事業関連発掘調査



だんごやまにしいせき 団子山西遺跡

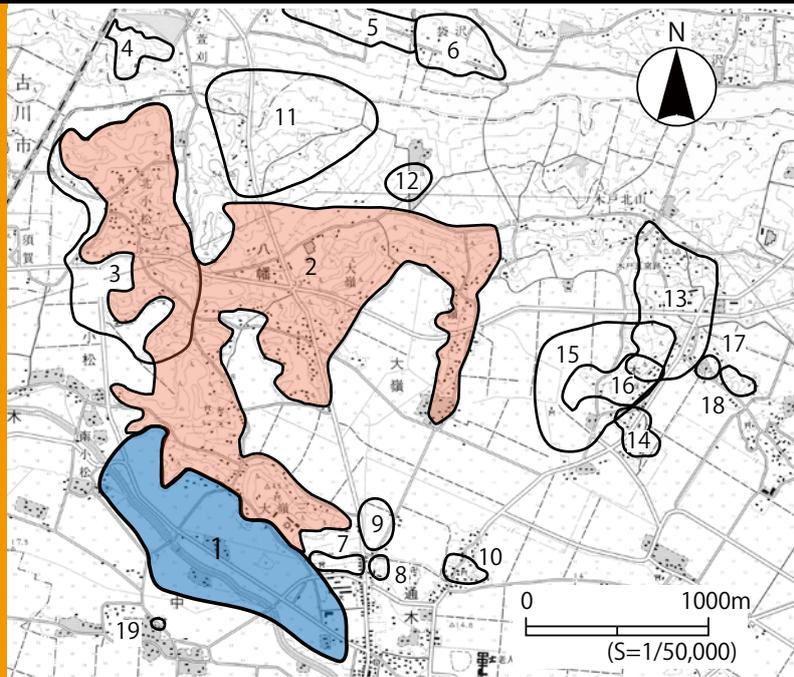
団子山西遺跡は、宮城県大崎市田尻小松・大嶺・中目・通木に所在し、江合川水系の田尻川兩岸の清滝丘陵（築館丘陵）南面の沖積地に立地します。標高は12～18m程で、現況は水田、畑、宅地となっており、その範囲は北西から南東に長く約1.7km、北東から南西方向は約0.7kmに及びます。

遺跡北側には、古代新田郡を治めた新田柵跡が隣接し、北東約5kmには8世紀前半に多賀城創建期の瓦を焼いた国史跡木戸瓦窯跡が所在するなど、周辺には奈良・平安時代の遺跡が多数分布するほか、北小松遺跡・通木田中前遺跡・木戸遺跡など、縄文時代から近世にかけての遺跡がみつかっています。

大崎市田尻地区では、県営ほ場整備事業とともに、平成13年度以降、大崎市教育委員会（旧田尻町教育委員会）や宮城県教育委員会が、関係する遺跡の発掘調査を実施してきました。本書では、田尻西部地区ほ場整備事業に先立って、平成23～29年に宮城県教育委員会が実施した団子山西遺跡の発掘調査成果を紹介します。

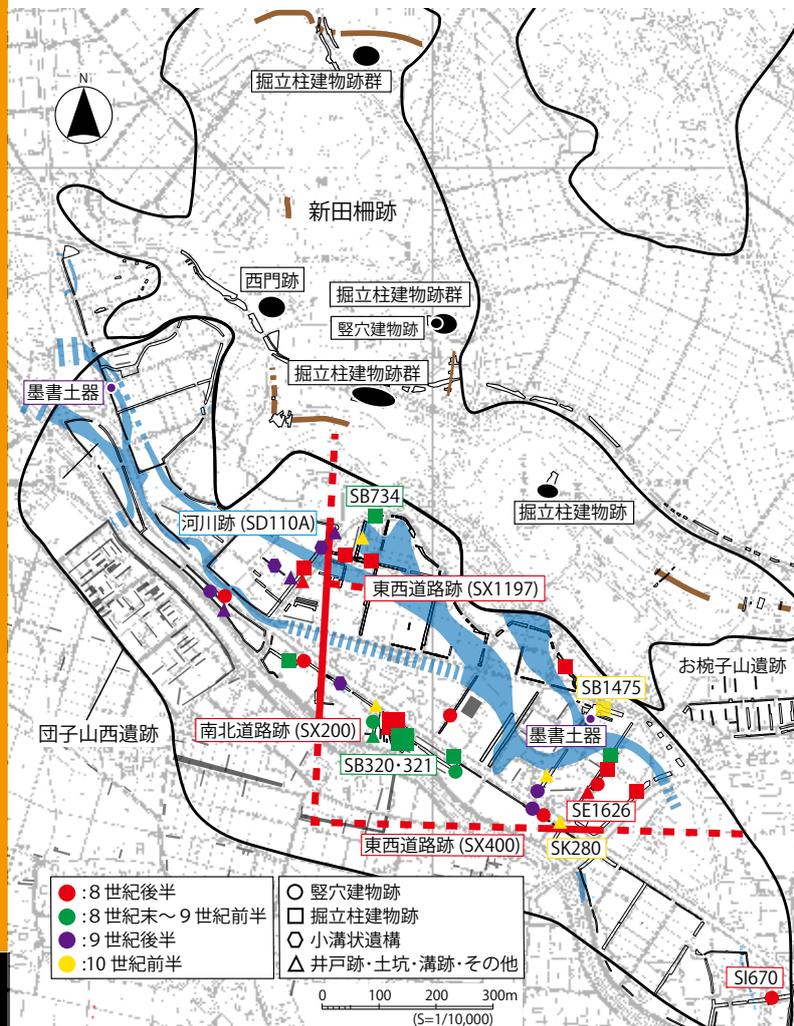
新田柵

新田柵は、律令国家が領土拡大と地域支配のため設置した「城柵」の一つで、平安時代に編纂された『続日本紀』天平9年（737）の記事にその名が記されています。城柵は政治機能と軍事機能の両方をあわせ持った機関・施設であったことから多くの官人（役人）や兵士が常駐していました。8世紀前半頃の大崎地域は、北辺の丘陵一帯に城柵やその関連施設が3～13km間隔で並んで配置され、北との境界を形成していました。



No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	団子山西遺跡	集落	縄文～近世	11	天狗堂遺跡	集落	縄文・奈良・平安
2	新田柵跡	古墳・城柵・集落	縄文～中世	12	大嶺遺跡	散布地	平安
3	北小松遺跡	散布地(泥炭層)	縄文・古代	13	国史跡 木戸瓦窯跡	窯跡	奈良
4	萱刈遺跡	散布地・道路・土塁	古代・中世・近世?	14	金鑄神遺跡	集落	奈良～中世
5	北原A遺跡	散布地	縄文・古代～近世	15	木戸館跡	城館・散布地	平安・中世
6	袋沢遺跡	散布地	縄文・古代	16	木戸遺跡	集落・散布地	弥生・古代～近世
7	お梶子山遺跡	散布地	縄文晩・古墳前・古代	17	北久保遺跡	散布地	縄文・古代
8	通木山崎遺跡	散布地	平安	18	泉谷崎畑遺跡	散布地	縄文・古代
9	通木田中前遺跡	散布地	縄文・弥生・古代	19	忠全寺跡	寺院	中世・近世
10	通木城跡	城館	中世				

遺跡の位置と周辺の遺跡



発見された建物跡等の位置（奈良・平安時代）

遺跡の概要

飛鳥時代後半から奈良時代前半にかけての大崎地域は、律令国家にとって勢力範囲の境界に位置し、関東地方から大量の移民を送り込んで郡を建て、支配領域に組み込むなど、政権が目指す北への領土拡大の為に最も重要な地域の一つでした。新田柵もそうした時代背景、社会情勢の中で設置された施設です。その南に隣接する団子山西遺跡とはどのよう

な遺跡なのか？これまで遺跡内では大規模な発掘調査は実施されていなかったため、その性格等については不明な点が数多くありました。しかし、今回の調査によって、【古墳時代】には集落が生まれ、特に中期の集落からは黒曜石製石器や琥珀が出土し、近畿地方を中心に広がる古墳文化だけではなく、北海道を中心とする縄文文化の要素をも包含した集落だったと考えられること、【奈良・平安時代】には郡の役所である新田柵が北に造営され、そこから続く道路や大型の掘立柱建物が整備されるなど、城柵と計画を一にした官人（役人）層の集落として運営されたとみられること、城柵廃絶後には、「寺」「軍」などと墨書された土器が出土し、寺院や軍団の関連施設が存在した可能性があることがわかりました。また、【中世】にも小規模な屋敷や集落が存在していたことが確認されており、古墳時代から中世にかけての集落変遷、新田柵に関わる官人たちの暮らしなどを明らかにすることができました。



大崎平野周辺の城柵・官衙関連遺跡（8世紀前半）



遺跡空撮（南東から）

古墳時代



【前期 (4 世紀)】

河川跡から土師器の甕や壺などが出土しました。この時期、のちに新田柵がつくられる北側丘陵には、当時の有力者のお墓である円墳が存在していることから、円墳の被葬者と関わりのある人々の集落（ムラ）がこの地に営まれていたと考えられます。

【中期 (5 世紀)】

遺跡南東部に集中して、竪穴建物跡 2 棟、土坑（穴） 2 基、溝跡 1 条などがみつかりました。

竪穴建物跡からは土師器・石製模造品・黒曜石製石器・琥珀などが出土しています。石製模造品は古墳文化、黒曜石製石器や琥珀は続縄文文化の遺跡で多く出土することから、この時期のムラは南と北の両方の文化の影響を受けていたことがわかります。また、溝跡などからは、石製模造品の未製品（製作途中のもの）もみつっています。石製模造品は祭祀（マツリ）の道具と考えられており、未製品の出土は、ムラの人々がこれらを自ら製作していたことを示しています。同様の事例は県内でも数例しか確認されておらず、貴重な発見となりました。



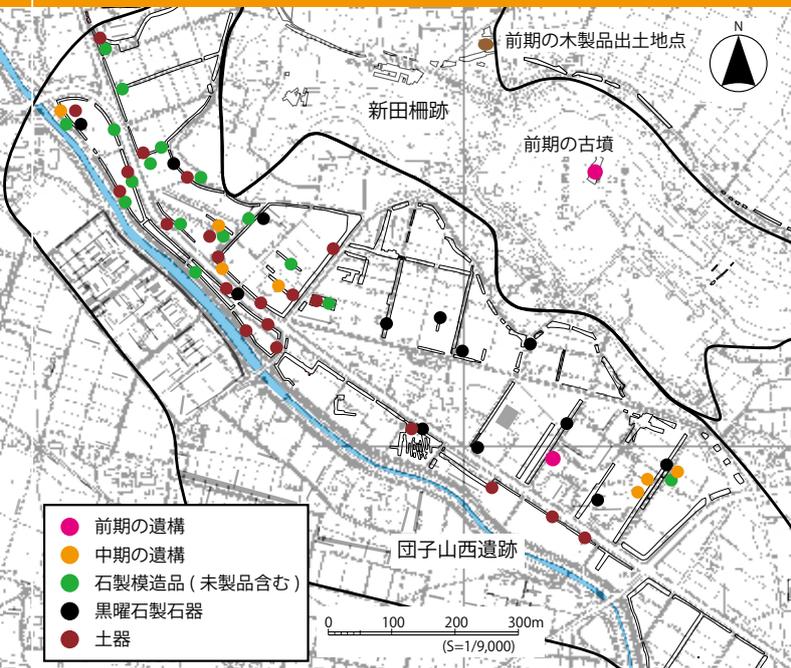
古墳時代中期の竪穴建物跡 (SI1621)



SI1621 遺物出土状況



土坑 (SK1362) 遺物出土状況



古墳時代の遺構や遺物がみつかった場所



竪穴建物跡 (SI1621) 出土土師器



土師器 (上: 坏 下: 器台)



琥珀 黒曜石製石器
北方系遺物



石製模造品 (鏡)

奈良時代



【8世紀前半—新田柵造営前後—】

この時期、竪穴建物跡などはみつかりませんが、新田柵にほど近い河川跡 (SD110A) からは土器などが多量に出土し、くりや たひと「厨田人」すえき※と墨書された須恵器もみつかりました。また、東側に隣接するお椀子山遺跡わんごやまでは掘立柱建物跡がみつかりましたので、柵の造営開始とともに人々が周辺に住み始めた様子うかがいを伺い知ることができます。

※厨 = 食物調理の場 ※田人 = 田植えをする人

【8世紀後半—新田柵造営後—】

柵からムラへと延びる幅 7.0 ~ 9.7 m の南北道路 1 条 (SX200) と、その東側で幅 4.2 ~ 6.6 m 東西道路 2 条 (SX400・1197) がつくられます。周辺では道路と方向を合わせた掘立柱建物跡 13 棟や竪穴建物跡 5 棟、その他いどあとに井戸跡 1 基、土坑 4 基、溝跡 10 条などがみつかり、次第に多くの人々が生活するようになったことがわかります。特に、同時期いつばんてきの一般的集落きしやうでは希少な存在である掘立柱建物跡は、南北道路周辺に集中しており、このエリアは新田柵で働く官人 (役人) たちの居住域だったと考えられます。



南北道路跡 (SX200)



南北道路跡 (SX200) 東西道路跡 (SX1197) 交差点



竪穴建物跡 (SI670)



カマド残存状況



掘立柱建物跡 (SB734) と柱穴断面



井戸跡断面 (SE1626)

平安時代



【8世紀末～9世紀前半】

道路は^{けいぞく}継続して使用され、周辺では掘立柱建物跡7棟以上や竪穴建物跡2棟、溝跡1条などがみつかっています。この時期、遺構の分布範囲は道路周辺、特に南北道路（SX200）と東西道路（SX400）に挟まれた北東側に集中しており、竪穴建物と比べて、掘立柱建物の割合が高くなる傾向がみられます。特に建物が集中する道路交差点付近は、床張りの建物や高床倉庫とみられる^{つかばしら}総柱建物等、大型の建物によって構成されており、新田柵正面南側に位置し、河川から^{はな}離れた^{びこうち}微高地で^{りっち}立地条件も良いことから、新田柵^{かか}に関する官人の中でも最上位階層の官人の居館だったのではないかと考えられます。



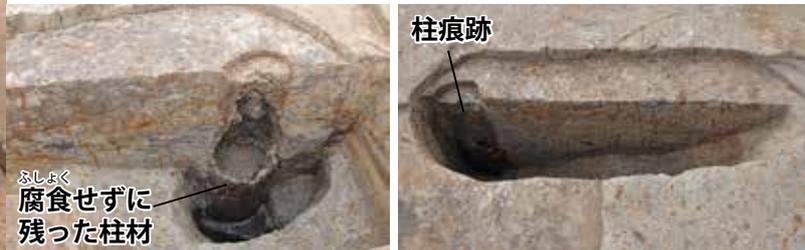
掘立柱建物群



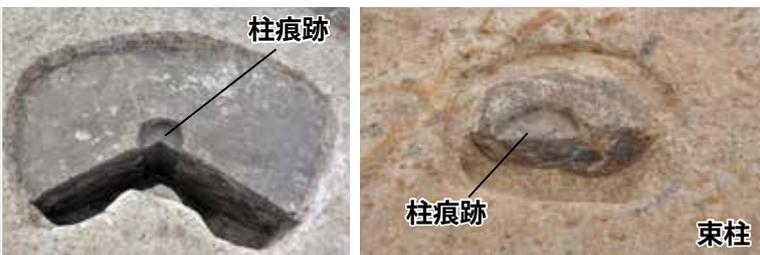
高床倉庫と考えられます。



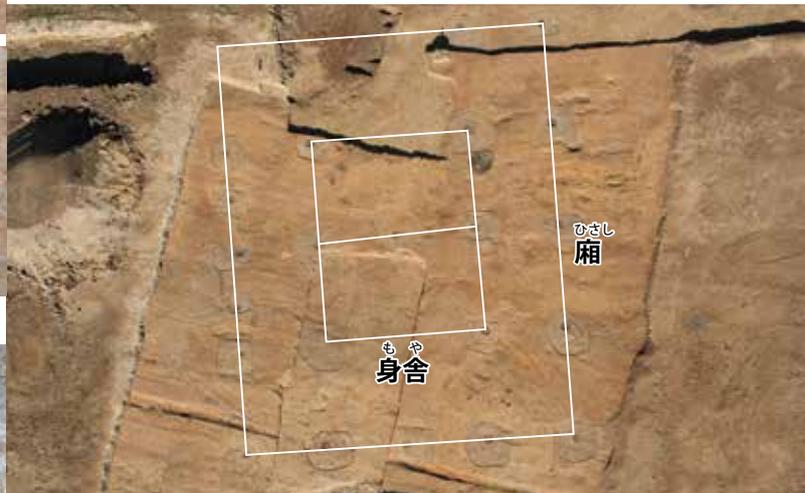
床張りの建物と考えられます。



掘立柱（総柱）建物跡（SB320）と柱穴断面



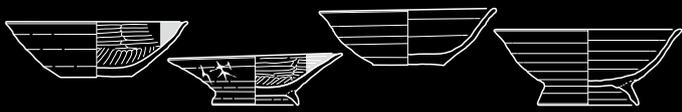
掘立柱（床束）建物跡（SB321）と柱穴断面



土坑（SK280）土器出土状況



掘立柱（四面廂）建物跡（SB1475）と柱穴断面



奈良・平安時代の出土遺物

【9世紀後半～】

9世紀後半頃には、新田柵^{かんが}は官衙としての主要な機能を失ったと考えられています。団子山西遺跡でも道路や掘立柱建物は廃絶し、竪穴建物跡4棟以上や畑跡^{しょうみぞじょういこうぐん}（小溝状遺構群）、土坑、溝跡などが点在するなど、全体的に遺構数は減少しています。その一方で、「□寺」「軍」と記された墨書土器が出土することから、この時期、官人（役人）の居住域から寺院や軍団兵士の活動の場へと土地の利用が変化したのではないかと考えられます。

【10世紀前半】

遺構数は更に減少しますが、四面廂付きの大型掘立柱建物跡（SB1475）などがみつかっています。ただし、建物周辺に関連施設はなく、単独で存在することから、この建物は何らかの非日常的な目的で設置されたのではないかと考えられます。また、土器をまとめて廃棄した土坑（SK280）もみつかっています。

遺物は8世紀前半から10世紀にかけての土師器、須恵器、灰釉陶器、赤焼土器、瓦、硯、石製品、木製品、金属製品などが出土しました。特に8世紀後半から9世紀前半のものが多く、城柵・官衙関連遺跡等で特徴的に出土する須恵器盤・稜碗・水瓶、石帯（官人のベルト）、当時の高級品である愛知県猿投窯産の須恵器・灰釉陶器などが含まれており、出土地点周辺が新田柵に勤務する官人層の居館跡であることを示唆する貴重な資料となりました。また、土器の頸部に線を彫って文様を施した土師器甕も出土しています。こうした特徴は古墳時代の琥珀等と同様、北方文化の影響を受けたものと考えられ、県北地域の文化的特徴の一つといえます。



1～3 墨書土器 1 土師器坏「□寺」（体部横位）
2 須恵器坏「軍」（体部横位）
3 須恵器坏「厨 田人」（底部）



SD110A 河川跡出土土器（須恵器）



※土師器は内面が黒色に焼成されています。 SK280 土坑出土土器（土師器・赤焼土器）

※猿投窯産

※頸部に文様があります。

4～8 須恵器 [4 盤 5・6 稜碗
7 水瓶 8 壺] 9 灰釉陶器
10・11 軒丸瓦 12 石帯（丸鞘）
13 硯 14 鉄鎌 15 土師器甕
16 木製品（井戸杵）

中世

遺跡北西部を中心に井戸跡4基、土坑3基のほか、溝跡などがみつけられました。建物跡は確認されませんでした。これらの多くは屋敷跡に関連するものと考えられます。

遺物は陶器、磁器(青磁)、銭貨、板碑のほか、漆・木・竹製品、石製品などが出土しています。陶器は在地の伊豆沼窯跡産の製品が最も多く、常滑窯産、渥美窯産、白石窯産の製品もみついています。伊豆沼窯産の製品は生産地以外での出土例が少なく、貴重な発見となりました。



井戸跡 (SE88) 断面



SE88 出土竹製品



青磁

板碑



渥美窯産

常滑窯産

陶器

伊豆沼窯産



重機による表土掘削



発掘調査報告書



竪穴建物跡の調査風景



現地説明会



現地説明会

発見された遺構や遺物は、野外調査の後、室内整理作業を経て分析・検討され、記録として保存されます。その成果は「発掘調査報告書」としてまとめられ、発掘調査が完了となります。

関連年表

およそ～年前	時代	
30,000年前	旧石器時代	
16,000年前	縄文時代	
2,500年前	弥生時代	
1,700年前	古墳時代	前期
		中期
		後期
1,400年前	古代	飛鳥時代
1,300年前		奈良時代
1,200年前		平安時代
800年前	中世	鎌倉時代
		室町時代
		安土桃山時代
400年前	近世	江戸時代

西暦	主なできごと
4世紀	大型の古墳が盛んにつくられる 県内では、雷神山古墳(名取市)、遠見塚古墳(仙台市)などがつくられる
5世紀	大仙陵古墳(仁徳天皇陵古墳)がつくられる
6世紀	聖徳太子が政治をおこなう
7世紀	645年 大化の改新
	658年 阿倍比羅夫が日本海岸の蝦夷の地に遠征する
	694年 藤原京に都を移す このころ郡山遺跡(仙台市)に多賀城以前の陸奥国府が置かれる
8世紀	710年 平城京に都を移す
	724年 多賀城が創建される
	794年 平安京に都を移す
	797年 坂上田村麻呂が征夷大將軍に任命される
9世紀	869年 陸奥国大地震(貞観地震)
	894年 遣唐使が中止される
10世紀	934年 陸奥国分寺七重塔が雷火で焼ける
	939年 平将門の乱
13~14世紀	1192年 源頼朝が征夷大將軍になる